江畑謙介

21世紀の特殊部隊

下《特殊装備篇》

並木書房

江畑謙介

21世紀の特殊部隊

下《特殊装備篇》

苏工业学院图书馆
藏书章

江畑謙介（えばた・けんすけ）
1949年生まれ。上智大学大学院理工学研究科機械工学専攻。博士後期課程修了。1983年～2001年英国の防衛専門誌『ジェーンズ・ディフェンス・ウイークリー』通信員。95年スウェーデンのストックホルム国際平和研究所（SIPRI）客員研究員。99年より防衛調達審議会議員。2000年より内閣官房情報セキュリティ専門調査会委員。2001年より経済産業省産業構造審議会安全保障貿易管理小委員会委員。著書に『最新・アメリカの軍事力』（講談社現代新書）『安全保障とは何か』（平凡社新書）、『インフォメーション・ウォー』（東洋経済）、『情報テロ』（日経BP社）、『殺さない兵器』（光文社）、『兵器と戦略』（朝日選書）、『2015：世界の紛争予測』（時事通信社）、『使える兵器、使えない兵器　上下』『兵器の常識・非常識　上下』『こうも使える自衛隊の装備』『強い軍隊、弱い軍隊』『これからの戦争・兵器・軍隊　上下』（共に並木書房）など多数。

21世紀の特殊部隊〈下巻〉
—特殊装備篇—

2004年7月5日　印刷
2004年7月15日　発行

著　者　江畑謙介
発行者　奈須田若仁
発行所　並木書房
〒104-0061 東京都中央区銀座1-4-6
電話(03)3561-7062　fax(03)3561-7097
http://www.namiki-shobo.co.jp
印刷　モリモト印刷
製本　豊文社

ISBN4-89063-174-7

下巻目次

第5章　特殊装備―小火器、センサー、通信機

ナイフ、小火器類　388
（1）白兵戦用ナイフ　389
（2）銃剣　391
（3）投げ斧「トマホーク」　393
特殊部隊用拳銃　395
（1）FNエルスタール九ミリM1935ブローニング・ハイパワー拳銃　396
（2）SIGザウエル九ミリP226拳銃　397
（3）H&K○・四五Mk23Mod0　OHWS　398
（4）H&Kアルチメート・コンバット・ピストル（UCP）　399
（5）グルザ九×二一ミリ拳銃　401
（6）七・六二ミリPSS消音拳銃　402
（7）NRS-2特殊偵察用ナイフ　403
特殊部隊用サブマシンガン　404

（1）H&K九ミリMP5　404
（2）九ミリ・ビゾン2　405
自動小銃、カービン　405
（1）七・六二ミリM14ライフル　405
（2）五・五六ミリM4／M4A1カービン　406
（3）五・五六ミリMK12特殊目的ライフル（SPR）　408
（4）九ミリAS特殊突撃銃　410
サブカービン　411
（1）M16SP／M16C　411
（2）七・六二ミリ／九ミリOTs-14グロザ特殊部隊用システム　412
（3）九ミリMAビルキール小型突撃銃　413
（4）A-91小型突撃銃　414
狙撃銃　415
（1）九ミリVSSビントレズ狙撃銃　415
（2）七・六二ミリOTs-03AS狙撃銃（SVU）　416
水中銃　417
（1）H&K七・六二ミリP11水中拳銃　418
（2）SPP-1M水中拳銃　419
（3）五・六六ミリAPS水中突撃銃　420
（4）五・四五ミリASM-DTユニバーサル突撃銃　421

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

機関銃と擲弾発射機　423
（1）五・五六ミリMk46SPW軽機関銃　423
（2）Mk47Mod0ストライカー／CG-40四〇ミリ自動擲弾発射機（AGL）　424
（3）四五ミリDP-64擲弾発射機　426
特殊部隊用弾薬　427
（1）SAECの零点規正不要弾　427
（2）RBCDの混合金属弾　428
特殊部隊用破壊装置　430
（1）SLAM　430
（2）PAM　432
（3）時限・遠隔起爆装置　433
通信装置　434
（1）特殊部隊用通信機に求められる特性　434
（2）特殊部隊用通信機の種類　438
（3）米特殊作戦部隊用JASORS　442
（4）特殊部隊用次世代通信機と衛星通信の活用　446
センサー、コンピュータ、翻訳機　448
（1）暗視装置・暗視照準装置　448
（2）新世代の暗視装置　450
（3）狙撃探知システム　454

（4）前線航空統制用装備と特殊部隊用パソコン　456
（5）翻訳機　465
無人偵察機（UAV）　467
（1）武装型無人機　467
（2）アフガニスタン、イラクで大きな効果を発揮したポインター　469
（3）米海兵隊のドラゴン・アイ　471
（4）「簡易型」UAV　472
その他の個人装備　476
（1）米特殊作戦コマンドのSPEAR計画　476
（2）ヘルメットと戦闘服　479
（3）防弾チョッキ　484
（4）個人装備携行装具、モールとエグゾスケルトン　493

第6章　特殊装備—車輌と舟艇、潜水艦、潜航艇　507

特殊部隊用車輌　508
（1）既存車輌を基にした特殊部隊用車輌　511
（2）特殊部隊専用型　531

潜水具、舟艇、潜航艇・潜水艦　550
（1）潜水具　550
（2）特殊部隊用舟艇　556
（3）潜水艦、潜航艇　576

第7章　特殊装備—航空機　613

「特殊な」機体が必要になる特殊作戦用機と現実　614
固定翼機　616
（1）MC-130Eコンバット・タロンI／Hコンバット・タロンII輸送機　616
（2）MC-130Pコンバット・シャドウ　639
HC-130N／Pキング空中給油・捜索救難機　639
（3）AC-130Eスペクター／Uスプーキー・ガンシップ　642
（4）EC-130Eコマンド・ソロI／Jコマンド・ソロII心理作戦機　665
（5）EC-130Hコンパス・コール通信妨害機　673
（6）EC-137通信中継機　674
回転翼機（ヘリコプター、チルトローター）　675
（1）AH-6／MH-6リトル・バード　675

索引

747

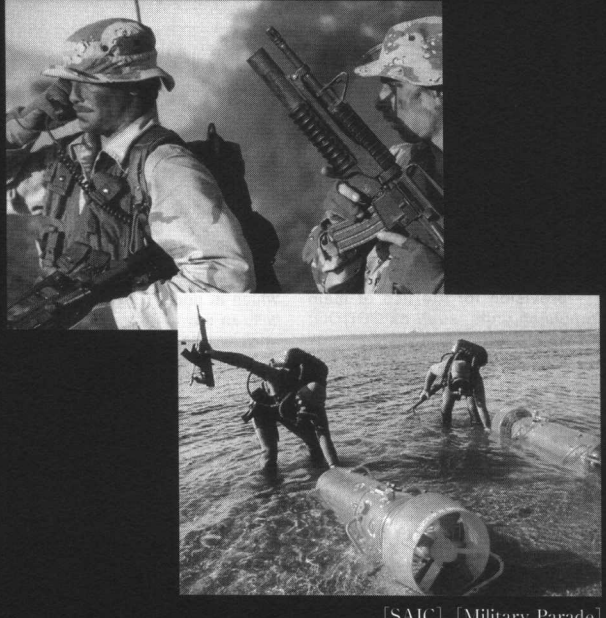
(2) HH／MH-60 694

(3) MH-47 713

(4) MH-53J／Mペーブ・ロウⅢ／Ⅳ 729

(5) CV-22オスプリ 737

第5章
特殊装備——小火器、センサー、通信機



[SAIC] [Military Parade]

特殊部隊は特殊な任務ゆえに装備も特殊なものが必要とされ、武器もナイフからミサイル発射機まで多種多様なものが使われる。

特殊部隊は特殊な任務ゆえに、装備もまた特殊なものが必要とされる。しかし、その任務の性格上、各国の特殊部隊の装備についての詳しい情報は少ない。

特殊部隊用装備といっても、小火器からセンサー、通信機、車輌、潜航艇、航空機など幅が広く、どこまでが特殊部隊用かという区切りはできにくい。むしろ特殊部隊は任務と必要性に応じて、何でも使えるものは使うという柔軟性が特徴である。

ナイフ、小火器類

武器もナイフからミサイル発射機まで多種多様で、もちろん通常部隊と同じ型も使われるが、また用途によってはかなり異なる型も使われる。特殊部隊の他の装備と同様に、特殊部隊専用に開発された銃（小火器）はそう多くはなく、ほとんどの場合は、その特殊部隊の目的に合った既存の銃を（開発生産国の国籍にとらわれずに）採用するか、既存の銃を基に特殊部隊用に改造を加えたものである。例外的に特殊部隊専用として開発された銃と

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

しては、ロシアの水中銃（拳銃と自動小銃がある）と、H&K社製のP11水中拳銃をあげることができる程度であろう。

これに対して弾薬のほうは、特殊部隊専用として開発されたり、特殊部隊だけで使われたりしている型が少なくない。威力（破壊力、殺傷能力）を重視しているためで、たとえば米軍の制式自動小銃M16を基にした特殊作戦用のM4カービンでは、四グラムの弾を発射する標準型のM855ではなく、五グラムの弾を発射するMk262を使用している。また後述するように、殺傷力が強いAPLPと呼ばれる弾も特殊作戦部隊で使用されている。

一方、後述する防弾チョッキの能力が向上するにつれて、拳銃弾を発射するサブマシンガンの威力に不満が見られるようになり、九〇年代後半からは軍や治安機関でサブマシンガンの代わりに、小銃弾を発射するコンパクトなカービン、通称「サブカービン」が使用されるようになってきた。機関部は自動小銃や突撃ライフル銃と同じものを使用し、銃身は二五センチ以下で、折り畳み式、ないしは伸縮式の銃床を備えている。弾は五・五六×四五ミリ弾を使用するのが一般的だが、ロシアのAKS-74U派生型のように、五・四五および五・五六ミリ弾だけではなく、七・六二×三九ミリ弾を発射するサブカービンもある。

(1) 白兵戦用ナイフ

白兵戦（格闘戦）用のナイフには多数の型があり、また各国の特殊部隊によっては、個人が自分

の好みで自由に選べる場合もあるようである。なにしろ銃がダメな場合の最後の戦闘手段であり、時には音を立てずに相手を倒す手段としても重要な武器となるから、必然的にその選択にあたっては厳しい条件が課せられる。

二〇〇四年中期時点における最新型の白兵戦用ナイフの一つに、米海兵隊が特殊作戦用に採用した「ストライダー・ミリタリー・フォールダー（Strider Military Folder：SMF）」がある。これが制式名称なのだが、「海兵隊特殊作戦コマンド用ナイフ（Marine Corps Special Operations Command's knife）」の頭文字を取ったMCSOComナイフ、それを縮めて「マーソック（MarSOC）」と呼ばれる場合が多い。

このナイフはカリフォルニア州サン・マルコスにあるストライダー・ナイフ社が開発製造しているもので、重量は一五六グラム、折り畳み式の刃の長さは一〇二ミリである。刃はS30Vアメリカン・スティール製で、最も厚い部分で四・二ミリの厚さがあり、刃の表面にダークグレーの帯がうねっているのが外観上の特徴となっている。柄はチタニウムでできている。

米海兵隊のMCSOComナイフ［Strider Knife Inc.］

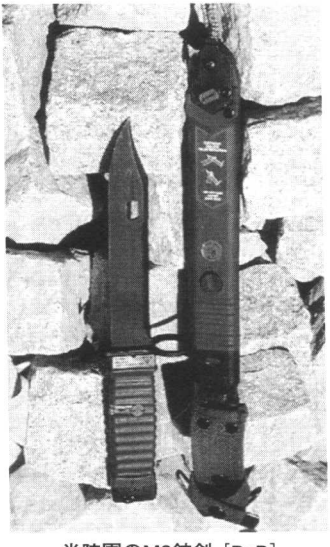
とにかく頑丈なのが売り物で、「金梃子に刃がついたようなもの」と形容されている。刃が折り畳み式である以上、使用時に折り畳まれてしまったり、取れてしまったりしたのでは困る。折り畳み式ナイフで最も弱い部分、つまり刃の回転ピボット部には、直径一二・七ミリの440ステンレス鋼製ピンが使用され、刃は四本のステンレス製のネジで止められている。その三本が外れたとしても、なお残りの一本で十分な固定強度を発揮するという。

また安全性にも考慮され、刃を折り畳んだ状態でも柄との間に隙間ができるため、自分の指が傷つくこともない。この安全設計は、現用の白兵戦ナイフでは唯一のものとされる。

米海兵隊特殊作戦コマンドのデタッチメント1（第1分遣隊：八六人）は、二〇〇三年一〇月から一年間の予定で実用実験を開始した。これで実用上問題がなければ米海兵隊特殊作戦部隊の制式ナイフとしてさらに多数が採用されることになる。価格は不明だが、民間用は五〇〇～五五〇ドルという。

(2) 銃剣

特殊部隊用ではないが、米海兵隊は二〇〇三年四月から、それまでのM7銃剣（バヨネット）に代わるオンタリオ・ナイフ・カンパニー（OKC）製3S型バヨネットの装備を開始した。海兵隊の新しい白兵戦技術教育課程でナイフ戦闘が重視されるようになり、より人間工学的にすぐれた設計の柄（ハンドル）が必要と考えられたためである。M16A2ライフル（自動小銃）、M4カービ



米陸軍のM9銃剣［DoD］

ンに装着して銃剣として使うと同時に、取り外して白兵戦のナイフ戦闘にも使用できる機能が重視された。

当初はバヨネット2000計画として候補の選定が行なわれ、ドイツのアイクホルン・ゾーリンゲン社の型が二〇〇一年九月二五日に採用されたが、米国の会社から選考過程の不明瞭さに関して異議申し立てがあり、二〇〇二年三月二九日から公募選定をやり直した結果、同年一二月一六日、四三社の応募案の中からOKCの3S型が選定されたものである。同社はそれまでの海兵隊用M7バヨネットの生産をしてきた会社であり、また米陸軍のM9バヨネット、米海軍のMk3ダイバー・ナイフの生産も行なっている。

OKC3S型は全長三三六・六ミリ、刃長二〇三・二ミリ、刃幅三三・三ミリで、重量は五九五グラムある。M16A2ライフルに装着した場合、銃口から一〇センチ先まで刃が出る形になる。刃は鋸状で、ロープや布の切断に便利なようになっている。また限定的ではあるが、防弾チョッキを貫く力があるという。銃剣と戦闘用ナイフを一種で兼ねられるようにしたのが特長であり、最終的には一〇万五〇〇〇丁が調達される予定である。

ロシアではかつてソ連の時代に「スペツナヅ」という大規模な特殊戦部隊を擁していただけに、各種の特殊部隊用装備が開発され、現在でもその遺産が数多く残っているが、その一つにＮＲＳ-2特殊偵察用ナイフ（英語では「スペシャル・スカウト・ナイフ：Special Scout Knife」と訳されている）というものがある。これはナイフと拳銃を組み合わせたもので、一発だけＳＰ-4無音弾（サイレント・カートリッジ）を発射できるようになっている。このナイフ拳銃については、後の拳銃の項で述べる。

(3) 投げ斧「トマホーク」

一方、米陸軍特殊部隊が装備する戦斧は米陸軍の通常部隊にも配備が開始された。軍の任務が多様化し、市街戦や平和維持活動などでは、従来の装備とは異なった種類のものが必要になるという認識から、緊急装備化構想（Rapid Fielding Initiative：ＲＦＩ）として、イラク派遣部隊を中心に次々と新しい装備を支給している。

その中に、従来は特殊作戦部隊だけで使われてきた戦斧、つまり米大陸先住民が使ってきたトマホーク（投げ斧）がある。元は一九六〇年代のベトナム戦争の時に、特殊作戦部隊と海兵隊用に銃剣に代わる白兵戦の武器として開発、装備化されたものであった。

しかし、現代においては市街戦での爆発物に代わる障害物破壊・突破用としての価値に注目され、アフガニスタン作戦（「不朽の自由」作戦）とイラク戦争（「イラクの自由」作戦）で米軍特殊作戦

ベトナム・タクティカル・トマホーク。写真はこのトマホークを手にした米特殊作戦部隊。
［American Tomahawk Co.］

部隊によって使用されたことから、その実用実績を元に、歩兵部隊における分隊の標準装備としても支給されるようになった。

開発製造はアメリカン・トマホーク・カンパニーで、二〇〇三年七月に米陸軍歩兵部隊の正規装備として採用され、ベトナム・タクティカル・トマホークの名称が与えられた。重量四八二グラム、ヘッド長二二〇ミリ、スパイク（尖頭部）の刃長は八〇ミリ、合計五カ所に刃を持つ。

トマホークを最初に支給されたのは、軽量の急速展開可能な新しいストライカー・ブリゲード・コンバット・チーム（SCBT）の最初の部隊である第2歩兵師団第3旅団で、二〇〇三年一〇月からRFI関係装備の一つとして支給が始まった。

市街戦用装備としては、この他にコンクリート切断用鋸、鋼板切断用鋸、スレッジ・ハンマー（大槌）、ボルト・カッターなども含まれる。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook